

今号の写真:福島産直市(東京メトロ銀座駅)

2月28日～3月2日に、東京メトロ銀座駅構内において福島産直市が開催され、6次化商品をはじめとした特産品を販売し、多くのお客様に、南会津地方の6次化商品等をPRしました。

今号の内容

- 特集 南会津地方の地域産業6次化
 - ・地域特産品クラスター分科会の取り組み
 - ・南会津地方エゴマ生産・消費拡大検討会を開催しました
- 今号のトピックス
 - ・花いっぱい青柳地区が「県知事賞」を受賞!
 - ・農地・水保全管理支払交付金の中間指導を実施しました
 - ・伊南地区山菜さのこ栽培研究会が「県知事賞」を受賞!
 - ・新たな農業士の誕生
 - ・南郷トマト講座を開催しました
- 農林事務所からのお知らせ
 - ・平成24年度南会津農林事務所モニタリング検査結果について
 - ・福島県産業別最低賃金の改定について

平成25年3月13日発行 福島県南会津農林事務所



特集 南会津地方の地域産業6次化

地域特産品創出 クラスター分科会の取り組み

当所では、昨年度より南郷トマトをテーマに、地域活性化につながる新たな特産品開発のため専門家を招き、南郷トマトに関わる方々とともに「地域特産品創出クラスター分科会」を開催してきました。

南郷トマトは品質の高さから、首都圏市場を中心に高い評価を受けていますが、市場出荷品の品質を維持するために、わずかな傷や色合いの違いなどにより市場に出荷できないトマトが発生します。

そのうち一部は、トマトジュースに加工したり、生のまま直売されますが、それでも消費しきれない分については、ほ場廃棄されています。



トマトジュースの
パッケージサンプル

市場に出荷できないものとはいえ、味は市場出荷品と遜色ないことから、分科会では何とかこれらの活用の道を拓こうと取り組んできました。

昨年度は、地元での生食以外の食べ方の聞き取りやドライトマト等の試作を通じて、加工品への可能性を探りました。

今年度は、それらの成果を活かし、旅行者をもてなす「季節限定トマト

ジュース開発」、JA会津みなみで昨年度導入した磨砕機で製造した「トマトピューレの改良と用途拡大」、南郷トマトの特性を明らかにするための「栄養成分分析」を軸として分科会を進めてきました。

その成果として、シーズン晩期に収穫したトマトで作る「季節限定トマトジュース」が市販できるレベルまで洗練されるとともに、「トマトピューレ」については、県内外の宿泊施設等から様々なメニューの提案がされました。

これらの成果を南郷トマト生産組合とJA会津みなみに還元し、生産者の皆様の所得向上の一助としてもらうこととしています。

(企画部)

南会津地方エゴマ生産・消費 拡大検討会を開催しました

2月7日、当地方の特産物であるエゴマの生産振興と加工品開発等の消費拡大を図るため、エゴマ生産者や加工事業者、商工団体、行政等が集まり、「南会津地方エゴマ生産・消費拡大検討会」が開催され、活動報告と外部講師による講演が行われました。

活動報告では、加工事業者の今年度の加工品の販売状況報告、県農業総合センターにおけるエゴマ加工品の劣化防止に関する研究報告、当所による収穫機械化実証ほに関する成果報告等が行われました。

また、講演では日本有数のエゴマ産地である宮城県色麻町しからまからお越しいただいた色麻町産



先進事例の講話に聞き入る参加者

業開発公社の伊藤取締役総括より「色麻町の取組みについて」と題し、色麻町におけるエゴマ栽培の歴史から

作業の機械化をはじめとした生産体制、多様な加工品開発、エゴマの生産・加工における課題までお話をいただきました。中でも、作業の機械化では、コンバインを用いた収穫の機械化を検討している当地方のエゴマ関係者にとってたいへん有意義なものとなりました。

こうした会議を機に関係者の交流が深まるとともに、エゴマの生産が拡大し、更には南会津のエゴマの活用が一段と進むことが期待されます。(企画部)

今号のトピックス

花いっぱい青柳地区が「県知事賞」を受賞！

第43回花いっぱいコンクールにて、南会津町の「青柳地区花いっぱい運動盛り上げ隊」の取組みが大賞の県知事賞を受賞しました。

青柳地区では、約10年前から集落に花を植えようとの取組みが始まり、現在、集落の至るところで四季折々の花が咲きほこり、多くの人たちの目を楽しませています。

水田の基盤整備の後には、何もない状態でしたが、自主的に花を植えようという動きが集落全体に広がり、「1年中、花のある青柳集落にしたい」という思いから、雪どけ後に家々の間を縫うように咲く水仙に始まり、田植え後の農道脇に咲く500mもの長さに及ぶカキツバタ、稲穂輝く秋にかけて集落全体に咲きほこるオレンジコスモス、各家庭前に設置したプランターに咲く花々など、季節毎に集落を彩ります。

その植栽規模は、道路沿いに100m以上と大規模に楽しめるものが多く、除草等の管理はとて大変ですが、草に負けないよう丈の高い品目を選定したり、老人会を中心とした細やかな日々の管理や、夏の暑い時期にも協力して草刈りをしてきた結果、まさに、集落のみんなの思いが花という形で青柳集落に見事な景観を作り出しました。

代表の馬場一久さんは、「夢また夢のような賞をもらった。来年も続けて受賞出来るよう、またみんなで頑張っていこう！」と盛り上げるとともに、「花いっぱいの取組みが南会津の他の地区にも広がっていけば嬉しい」と話しています。

花いっぱいの青柳地区に、是非一度遊びに来てけやれ。(農業振興普及部)



ひまわりの黄色が、地区に彩りを加えます。

農地・水保全管理支払交付金の中間指導を実施しました

この交付金は、田畑それぞれに対して4,400円/10a、2,800円/10aの交付金を受けることができ、当地方では、下郷町3組織、只見町10組織、南会津町5組織がこの制度を活用して活動しています。

今年は2期目の初年度であったことから、手探り状態の組織も数多く見られたものの、どの組織も、休日などを利用して、地域の皆さんが一丸となって、水路・農道の除草や、土砂上げ作業などを実施していることが、活動記録から確認できました。

さらに、どの組織でも定期的な活動及び交流の状況が確認できるとともに、農村環境保全活動のひとつである「啓発・普及」では、昨年10月に青柳地区で開催された、農業施設と地域の文化施設を巡るウォーク活動を筆頭に、各組織独自の活動が見られました。

また、新年度の活動については、生き物調査に専門家を呼んで話を聞きたいといった要望がありました。

これまでの農村周辺環境の維持管理は、隣接する農地所有者や、耕作者に



農業用施設の役割に理解が深まりました

よって実施されてきましたが、この制度を利用され、今後更なる地域の絆づくりの活動が期待されます。



各組織の取り組みを確認しました
(農村整備部)

伊南地区山菜きのこ栽培研究会が「県知事賞」を受賞！

2月5日に、県主催の「平成24年度林業研究グループ等活動発表会」が県林業研究センターで開催され、「伊南地区山菜きのこ栽培研究会」が、最優秀賞（県知事賞）を受賞しました。



県知事賞受賞を機に更なる取り組みに向けて決意がみなぎります

伊南地区山菜きのこ栽培研究会は、平成17年に農業従事者を中心として設立された林業研究グループです。

深刻化している野生動物による農作物への被害や、森林の荒廃、天然きのこの減少、さらには、農業従事者の高齢化などによる、遊休農地の増加などの問題解消、高齢者に元気になっていただくことを活動目的としています。

今回、新たな地域興しとして、遊休施設を活用した「きのこ栽培」に取り組み、高齢者の方々に無理のない量のきのこ生産（少量生産）をしていただき、生産されたきのこを一カ所に集荷することで、少量生産・大量出荷が可能となる体制の確立、高齢者の方々が元気に働ける就労の場の提供、及び販路の拡大を図ったことなどの活動が認められ、福島県代表として平成25年9月に開催される東北・北海道ブロックコンクールへ、参加することとなりました。

代表として、東北・北海道ブロックへ参加するにあたり、研究会の会長である平野五十男氏をはじめ、会員の方々からは「これまで以上に、努力を惜しまず地域の活性化に向けて寄与していきたい。」との意気込みが語られました。

なお、昨年11月19日に、消費者の皆さんに安心・安全で健康に良いきのこを沢山食べてもらいたいとの願いから、もっときのこを食べようプロジェクト活動準備会が開催され、毎月第1土曜日は、「もっときのこを食べよう日」に設定されましたので、是非、伊南地区山菜きのこ

栽培研究会の会員が心を込めて栽培したきのこをどうぞご賞味ください！！（森林林業部）

新たな農業士の誕生

2月15日に石川町母畑温泉において、平成24年度福島県農業士認定証交付式が開催され、当地方では、指導農業士に月田洋子さん、青年農業士に酒井三郎さんが新たに認定を受けました。

交付式では、月田洋子さんが指導農業士を代表して、認定証を受け取りました。今回認定を受けたお二人のこれからの御活躍が期待されます。



月田洋子さん

酒井三郎さん

また、これまで指導農業士として農業振興や後継者育成に御尽力いただいた酒井澄子さん、青年農業士として地域の若い農業者の牽引役として活躍してきた五十嵐和さんが3月いっばいで退任されます。長い間お世話になりました。（農業振興普及部）

南郷トマト講座を開催しました

12月19日、1月18日、2月22日に南郷総合センターで南郷トマト講座を開催しました。

当所及びJA会津みなみからは、生産量の増大を目的に、平成24年度南郷トマトの実績と次年度対策や、近年発生が目立つ難防除病害（すすかび病、葉腐病）の対策について説明しました。

南郷トマトの青年部である研究部及びJA会津みなみからは、研究部試験ほ成績（資材・新品種）や視察研修内容についての発表があり、若手生産者の勉強熱心さや研究部活動を聞いて、様々な世代の生産者が感心されていました。

また、外部講師として、タキイ種苗（株）とベルグアース（株）をお招きしました。本年から桃太郎セレクト（新品種）の栽培を開始することもあり、タキイ種苗（株）からは「ギフト・セレクト」で10トンと



熱心に講話に聞き入る参加者

る！！」という演題で栽培技術講習をしていただきました。質疑応答が活発に行われ、生産者は新品種の栽培ポイントについて理解を深めました。

ベルグアース(株)からは、年々注文が増加しているヌードメイク苗の取扱方法について講義をしていただきました。講義だけでは伝えきれない育苗の技術面については、ベテラン生産者の育苗ハウスをお借りして現地指導会を開催することになっています。

本講座で習得したことを生かしていただき、本年も多くの高品質トマトが出荷されるよう、当所でも支援をしていきます。

(農業振興普及部)

農林事務所からのお知らせ

平成24年度南会津農林事務所 モニタリング検査結果について

今年度、南会津農林事務所管内で実施したモニタリング検査結果については、次のとおりとなっています。(3月13日現在)

■検査結果概要

検査点数 909 点
(検出せず 728 点 基準値未満 178 点 基準値超過 3 点)

■検査結果詳細

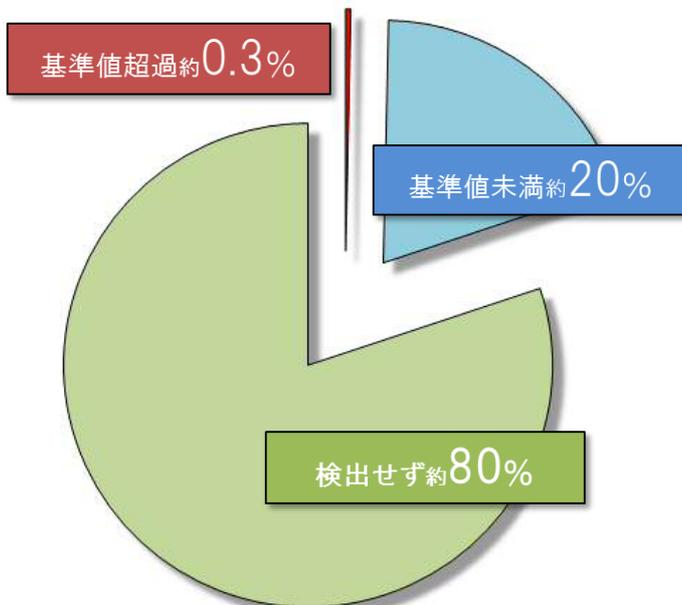
	基準値超過	基準値未満	検出せず	合計
野菜	0	0	297	297
果樹	0	0	44	44
穀類(米以外)	0	2	73	75
穀類(米)	0	0	42	42
山菜	1	11	39	51
きのこ	0	127	75	202
樹実類	0	0	3	3
畜産物	0	1	69	70
魚介類	2	37	86	125
合計	3	178	728	909

※ 全量全袋検査と同じ方法で実施

■基準値超過品目一覧

採取地	採取年月日	品目	形態	セシウム合計値
下郷町	H24.5.7	こしあぶら	野生	120
南会津町鱒沢川	H24.5.17	イワナ	野生	180
只見町布沢川	H24.5.16	ウグイ	野生	120

★ 平成24年9月19日付けで採捕制限は解除



※基準値は100Bq/kg 検出下限値は概ね3.0~25Bq/kg (個体差あり)

福島県産業別最低賃金の 改訂について

福島県の最低賃金が、昨年10月1日から1時間あたり664円に変わりました。

常用・臨時・パート・アルバイトなどの名称にかかわらず、県内の事業場で働く全ての労働者に適用されます。

なお、詳しくは福島労働局又は、最寄りの労働基準監督署までお問い合わせください。

(総務部)

<問い合わせ>

福島労働局賃金室 電話024-536-4604

「必ずチェック最低賃金！使用者も 労働者も」

福島県の最低賃金が平成24年10月1日から変わりました。

664円 金額は時間額です



お問い合わせはこちら

福島県南会津農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1
ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>
電話 0241-62-5252 FAX 0241-62-5256



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。